

鹿兒島市立図書館基本的運営方針

鹿 児 島 市

目 次

I	策定の趣旨	1
II	鹿児島市立図書館の現状	2
III	基本目標と施策	5
1	基本目標	5
2	体系図	6
3	施策の方向性	7
IV	目標・指標	12



I 策定の趣旨

鹿児島市立図書館は、平成2年12月の開館以来、図書、郷土資料、視聴覚資料等の収集、整理、保存を図り図書館資料を市民の利用に供しその利用のための相談に応ずるとともに、読書会、展示会等を開催しその奨励に努めてまいりました。また、移動図書館の巡回及び公民館図書室との連携や、他の図書館、学校、その他の機関との連携及び協力を行い、市民の教育の振興及び文化の発展への寄与に努めてまいりました。

近年は、急速なグローバル化やインターネットをはじめとする情報技術の発展、少子高齢化の進展などにより図書館を取り巻く環境も大きく変化しています。それに伴い、平成24年12月には「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正され、図書館が「地域の知の拠点」として、市民の生涯にわたる主体的な学習活動を支え、促進する役割を果たすことが求められています。また、地域が抱える様々な課題解決の支援や、地域の実情に応じた情報提供サービスなど、幅広い観点から社会に貢献することが期待されています。

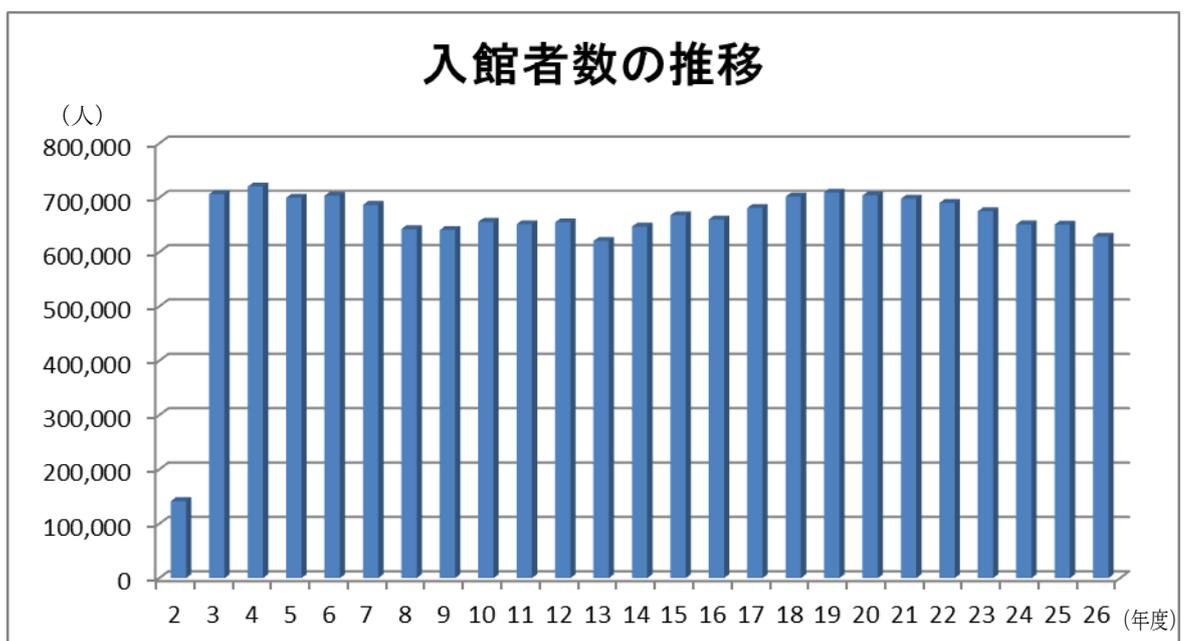
このような図書館を取り巻く動向を踏まえ多様化・高度化する市民の要望に対応するために、図書館の目指すべき目標と、今後の取組みの方向性を示すものとして「鹿児島市立図書館基本的運営方針」を策定します。



II 鹿児島市立図書館の現状

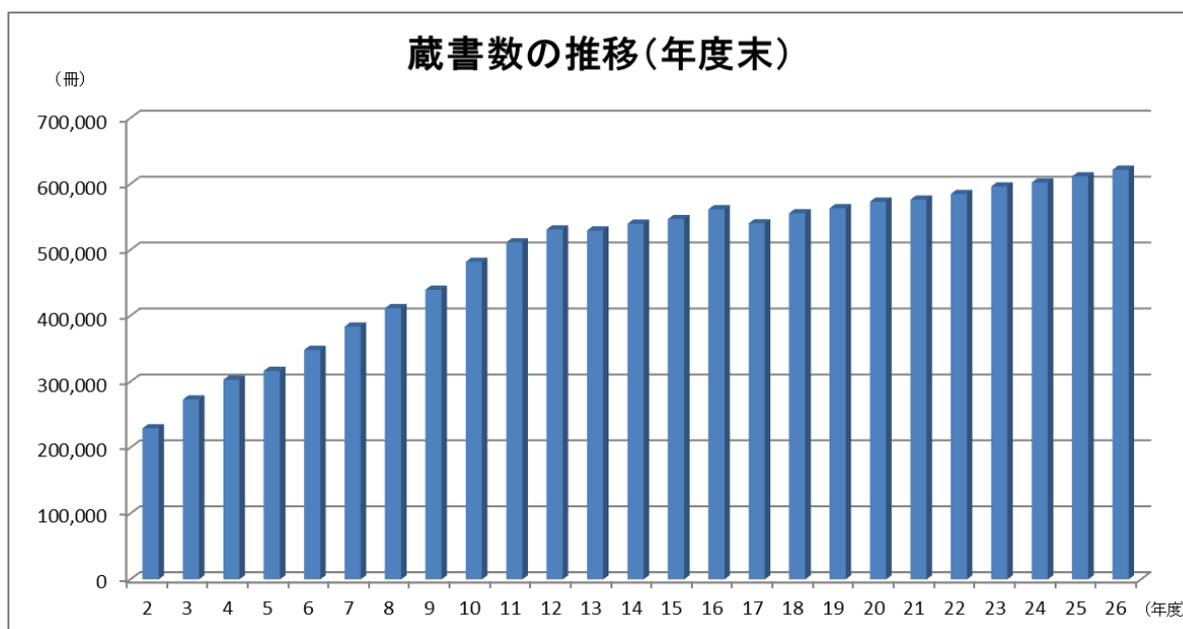
鹿児島市立図書館は、「誰でも気軽に利用できる開かれた図書館」として、玄関ホールに雑誌・新聞等を読めるブラウジングコーナー30席を設け、閲覧スペースを常時確保するとともに、一般開架室と分けて児童室を設置しています。また、児童室には読み聞かせ等を行える「おはなしのへや」もあります。様々な利用者に対応するために「赤ちゃんえほんのへや」や「点字図書室」の設置、高齢者や障がいのある利用者に向けた資料としての大活字本や録音図書等の整備を行っています。平成26年6月からは、仕事等で昼間に図書館を利用することが困難な市民が利用できるよう、平日の開館時間を2時間延長し午後9時までとしました。

入館者数は、開館から26年度までで1600万人を超えています。し



かしながら、年度毎の入館者数では、19年度以降減少傾向にあり、26年度は約63万人になっています。

蔵書は、26年度末で約62万冊（移動図書館を含む）を超えます。このうち、児童図書約19万冊、参考図書約1万5千冊、郷土資料約1万点となっています。また、大活字本が2,713冊、録音図書（テープ及び



CD) が2,238点、点字図書512点を所蔵しています。資料については、「医療・健康情報コーナー」や「ビジネス情報コーナー」など6つのテーマを設けて配架しています。また、本の相談等がしやすい環境を整えるため、23年度に、2階に設置

していた※レファレンスコーナーを1階の入口付近に移動しました。相談内容は、近年、複雑化、多様化しています。

レファレンス件数の状況

年度	25年度	26年度
レファレンス件数	2,167	2,051

* レファレンス件数は、質問を受け、本・情報を提供したもの及び館内の本の案内をしたもの数。

※レファレンス……レファレンスサービスのこと。何らかの情報（源）要求を持っている図書館利用者に対し、その必要とする情報ないし情報源を効率よく入手できるように援助する図書館員によるサービスであり、それを有効に行うための関連諸業務からなる。

学習機会の提供と

おはなし会・各種講座参加者数(人)

して、26年度は、おはなし会・講座等の催しを、合計で181回実施しました。この他

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人数	3,750	3,532	3,885	3,781	4,446

にも、「夏休み自由研究参考図書展」や「平和都市宣言展」など71回の企画展示を行っています。また、県立図書館等と連携した相互貸借や、科学館等との共同企画によるイベント、地域のボランティアと連携した読み聞かせの実施など、他機関・団体等との連携・協力を行っています。さらに、学校との連携については、図書館見学や職場体験学習等の受入、特別貸出の実施や教職員等に対する研修会も実施しています。



Ⅲ 基本目標と施策

1 基本目標

図書館は、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した「地域の情報拠点」として、市民の教育と文化の発展に寄与する重要な役割を担っています。そのためには、一人でも多くの市民が図書館を利用することが重要です。鹿児島市立図書館は、これまでも誰でも気軽に利用できる図書館を目指してきましたが、今後は、さらに図書館の魅力を伝えながら、「市民が利用しやすい図書館」づくりを目指します。

また、図書館には利用される方々の課題解決の支援が求められています。市民の多様な資料要求に対応した資料の収集・整備や市民の生活や仕事等の課題解決支援に関する資料や情報の提供に取り組み、「市民に役立つ図書館」づくりを目指します。

さらに、図書館は、市民の自主的・自発的な学習活動を支え、促進する役割も求められています。鹿児島市立図書館では、あらゆる世代の市民が集い活動する場として講座等を実施するとともに、市民との協働や学校や関係機関等との連携に努め、「市民と協働し学びを支える図書館」づくりを目指します。

以上「市民が利用しやすい図書館」「市民に役立つ図書館」「市民と協働し学びを支える図書館」の三つを鹿児島市立図書館の運営における基本目標として掲げました。

2 体系図

基本目標	重点施策
(1) 市民が 利用しやすい 図書館	<ul style="list-style-type: none">① 誰もが使いやすい図書館サービスを提供します。② ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実に努めます。③ 図書館の館外サービスの充実に努めます。④ 積極的な広報活動、情報発信に努めます。
(2) 市民に役立つ 図書館	<ul style="list-style-type: none">① 地域の情報拠点として資料の計画的な収集・整備に努めます。② 課題解決支援に役立つサービスの充実に努めます。③ レファレンスサービスの充実に努めます。④ 図書館職員の資質向上に取り組みます。
(3) 市民と協働し 学びを支える 図書館	<ul style="list-style-type: none">① 様々な世代に対応した多様な学習機会を提供します。② 子どもが主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。③ 関係機関や団体等との連携に努めます。④ ボランティア活動等の促進に努めます。

3 施策の方向性

鹿児島市立図書館は、三つの基本目標の実現に向け、総合的、体系的取り組みを進めてまいります。

(1) 市民が利用しやすい図書館

市民の誰もが利用しやすい図書館にするため、図書館資料を組織化し、図書館電算システムや移動図書館を活用するとともに、ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの提供に努めます。また、図書館の魅力を伝える広報活動・情報発信に努めます。

① 誰もが使いやすい図書館サービスを提供します。

利用者の利便性の向上を図るため、分類、配架など図書館資料の組織化や書誌データの整備に努めるとともに、図書館電算システムを活用した蔵書検索・予約や貸出・返却などのサービスを提供します。

② ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実に努めます。

高齢者、障がい者、乳幼児とその保護者など様々な利用者に配慮して、大活字本資料の充実や子ども用本棚の増設、乳幼児とその保護者が安心して利用できる環境づくり、日本語以外を母語とする利用者への表示の配慮などサービスの充実に努めます。

③ 図書館の館外サービスの充実に努めます。

公民館図書室と連携した貸出・返却などのサービスを充実するとともに、地域の実情や要望に応じて移動図書館によるサービスの提供に努めます。

④ 積極的な広報活動、情報発信に努めます。

市民の図書館への関心を高め利用を促進します。図書館についての情報をホームページやSNS等を活用して多方面に向けて発信し、図書館を利用したことがない人にもサービス内容を知らせるよう積極的な広報活動、情報発信に努めます。

(2) 市民に役立つ図書館

市民に役立つ図書館となるために、市民の多様なニーズに対応できるよう資料の収集・整備に努めます。また、新たな図書館の役割として求められている課題解決支援に関する資料などの提供に取り組みます。資料などが十分活用されるようレファレンスサービスを充実するとともに、図書館職員の資質向上に取り組みます。

- ① 地域の情報拠点として資料の計画的な収集・整備に努めます。

市民の多様なニーズに対応して、課題解決支援に役立つ資料を充実するなど幅広い蔵書構成が図られるよう、資料の計画的な整備に努めます。また、郷土資料及び地方行政資料、視聴覚資料等多様な資料の整備・保存にも努めます。

- ② 課題解決支援に役立つサービスの充実に努めます。

市民の生活や仕事に関する課題や地域が抱える課題の解決等を支援するために、就業、子育て、教育、医療・健康、法律、防災等の特定のテーマについて実用的な情報を提供するなど、資料や情報の提供その他のサービスの充実に努めます。

- ③ レファレンスサービスの充実に努めます。

インターネット等を活用するとともにレファレンス事例のデータベース化を進めるなど、課題解決支援に向けて資料及び情報の活用が十分になされるようレファレンスサービスの充実に努めます。

④ 図書館職員の資質向上に取り組めます。

組織内研修を実施するとともに国や県などの研修への積極的な参加に努め、市民の求める資料や情報を的確に提供できるようにするなど、図書館職員の資質の向上に取り組めます。

(3) 市民と協働し学びを支える図書館

図書館は、市民の読書活動や学習活動を支援するために、様々な世代に対応した多様な学習機会の提供に努めるとともに、子どもの読書の習慣化を図り、子どもが主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。併せて、市民の多様な学びを支えるために、関係機関との連携や市民との協働に努めます。

① 様々な世代に対応した多様な学習機会を提供します。

どの世代の利用者でも、学習活動の支えとなるよう、読み聞かせや講座、資料展示等の充実を図るとともに、設備や資料の提供を通して、多様な学習機会を提供します。

② 子どもが主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。

子どもが読書に親しむ機会の積極的な提供に努め、主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。また、ブックスタート事業や大型絵本の貸出など家庭・地域の支援や、学校図書館支援図書の充実、読書指導研修会の実施など学校との連携を図ります。

③ 関係機関や団体等との連携に努めます。

多様化する市民の要望に対応できるよう、県立図書館など他図書館と連携した相互貸借や共同企画等を実施するとともに、近代文学館など関係機関と連携した企画展示、読み聞かせグループなどの関係団体への団体貸出の推進に努めます。

④ ボランティア活動等の促進に努めます。

読み聞かせや朗読などを行うボランティアとの協働・連携を図り、その活動の機会や場所の提供に努めます。また、ボランティア育成のため研修等の充実に努めます。



IV 目標・指標

基本目標ごとに指標を定め、その目標値は「第五次鹿児島市総合計画」の最終年度である平成33年度までとします。

(1) 市民が利用しやすい図書館

<指標> 入館者数

<目標値>

26年度	33年度
628,010人	650,000人

図書館を利用したことがない人にもサービス内容を知らせるよう積極的な広報活動、情報発信や関係機関と連携したイベントの充実などにより、年間約3,000人の増を目途とし、33年度に約650,000人の入館者を目指す。

(2) 市民に役立つ図書館

<指標> レファレンス件数

<目標値>

26年度	33年度
2,051件	3,000件

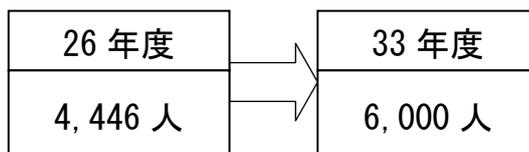
インターネットの活用やレファレンス事例のデータベース化等を通して、レファレンスサービスの利用を促進することにより、年間約150件の増を目途とし、33年度に約3,000件のレファレンス件数を目指す。

(3) 市民と協働し学びを支える図書館

<指 標> おはなし会・講座等の参加者数

<目標値>

26 年度	33 年度
4,446 人	6,000 人



市民との協働や関係機関との連携による講座等の充実を図るとともに、広報活動や延長した時間帯でのイベント開催などにより、年間約 200 人の増を目途とし、33 年度に約 6,000 人のおはなし会・講座等の参加者数を目指す。